

平成 26 年度 動物慰霊式について

国立水俣病総合研究センター

動物倫理安全等委員会

国立水俣病総合研究センター（国水研）にて毎年行っております動物慰霊式を、平成 27 年 3 月 10 日に敷地内においてとり行いました。

国水研では、平成 26 年度内に水銀研究の目的で実験に供された動物は、ラット 93 匹、マウス 375 匹、合計 468 匹を数えました。これらの多くの尊い命の犠牲により貴重な研究成果が得られ、学術論文や学会で多くの発表がなされました。

当センターの水銀研究のために犠牲になられた多くのラット・マウスの実験動物に対し、感謝と敬意を表し、私たちの水銀研究成果が貴重な動物たちの生命の上に成り立っている事実を再認識して研究に従事していくことを誓い、研究者及び職員が献花と黙祷を行いました。献花は、センター内にあります動物慰霊碑に飾られました。

以下は野田 広所長による慰霊のことばです。

慰霊のことば

本日、国立水俣病総合研究センター動物慰霊式を挙げるにあたり、出席者を代表し、水俣病研究のため貢献された諸動物の御霊の前に深く頭を垂れ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

センターは 1978 年の発足以来、水俣病患者及びメチル水銀中毒症の未然防止のために、発症機序や病態の解明、また、環境中水銀の生物体への影響に関する研究等、様々な研究を続けて参りました。そして、その研究成果の蓄積は、動物実験で犠牲となった多くの尊い命の下にあります。

私たちは、さまざまな動物とのかかわりをもつ中において、人の生存や幸福があることを常に認識し、特に動物実験に直接携わる者は、これらの動物に対し、深い思いやりと感謝の念を忘れてはならないと思っております。

また、これらの動物の貴重な存在については、その事実を多くの人々に知っていただき、感謝を忘れないように促す努力をしたいと思っております。こうしたことが、実験に関連して命を失った動物に対する謝恩の志を捧げるばかりでなく、動物に対する道義的・倫理的な扱いにつながるものと確信しております。

この世に生を受け、そして去ったものの御霊をなぐさめ、思いをいたすことは、対象が人間であっても動物であっても普遍的なものであります。改めて、センターの研究のために、この世を去った数多くの動物の御霊に、職員一同、心から感謝の誠を尽くすとともに御霊の安らかな眠りをお祈りし、慰霊のことばをいたします。

平成 27 年 3 月 10 日

国立水俣病総合研究センター所長 野田 広



祭壇



会場の様子



慰霊の言葉
(野田 広所長)



慰霊の言葉
(坂本峰至動物倫理安全等委員長)



職員による献花



全員で黙祷